

県指定 天然記念物

間越のウバメガシと自然林



ウバメガシはブナ科の常緑高木である。この仲間は地中海のような夏乾燥型の気候に適して発達した種類で、日本では瀬戸内海を中心に伊豆半島以南に分布し、県下では主に佐賀関から蒲江仙崎あたりまで分布するが、中心は四浦半島、鶴見半島である。間越のものは谷に沿ったタブノキ、クスノキ、ホルトノキ等の残存林の斜面に見られ、低木はタイムンタチバナ、林床はホソバカナワラビが優占する。ウバメガシは、胸高直径60～77cm、樹高15m～18mのものが林内と周辺にある。木は硬く、良質の木炭として利用されてきたため、伐採がくり返され、生育地は岩場が多く、成長が遅いことから巨木となっているものは少ない。そのため、このように大きな個体が自然林の中に見られるのは珍しい。